



~.....*~*

▼△ 優しさを添える △▼

~.....*~*

大手外食チェーン店などで、タッチパネルを使ってお客自身が注文を行うセルフオーダーシステムに触れる機会が増えてきました。

そうしたなか、ある方が経験した話をご紹介します。

その方は機械の操作が大の苦手で、あるお店で席に備え付けてあるタブレット端末ではなく店員さんに直接注文をしていいか聞いたところ、

「注文はタブレットでお願いします」と、なんとも冷たくあしらわれてしまいました。

苦戦しながら何とかタブレット端末で注文を済ませ、料理が運ばれてきました。すぐ食事を済ませ、早々にその店を引き上げました。

数日後に訪れた別の店で、またタブレット端末が席に置いてありました。

イヤな思いをしたくなかったので端末で注文しようと、あれやこれやとがんばっていると、その様子を見ていた店員さんが声をかけてきて、タブレットの操作方法を一から丁寧に説明し、さらに直接の注文でも構わないのでと笑顔を応じてくれたのです。

その方は、操作方法を教えてもらったことでタブレット端末への苦手意識が薄れ、また人と人のやり取りの心地よさを味わうことができ、その店の大ファンになったということです。

機械は確かに便利なものですが、それは私たちが快適に暮らしていくためのものであったはずです。

これからもあらゆる分野で機械が活用されていくでしょうが、そこに人間らしい優しさ、温かさを添えていきたいものですね。

~.....*~*

▼△洪水災害から命を守るための「洪水キキクル」活用法△▼

~.....*~*

■洪水の危険度をスマートフォンなどでリアルタイムに確認可能

初夏から秋にかけては、大雨や暴風、高潮などによる災害が起こりやすい季節です。特に近年は1時間の降水量が50mmを超える大雨で河川が急激に増水・氾濫して、洪水災害が発生するケースが増えています。

洪水災害から命を守るには、早めに避難することが大切です。

気象庁が提供する、洪水災害の危険度をスマートフォンなどでリアルタイムに確認できる「洪水キキクル（洪水警報の危険度分布）」をご存じでしょうか？ 災害発生の危険を察知し、安全なうちに避難するために、「洪水キキクル」の情報が役に立ちます。

●「洪水キキクル」とは？

大雨による中小河川での洪水災害発生の危険度の高まりを5段階に色分けして地図上に示したものです。

インターネット環境さえあれば、いつでもどこからでも、ご自身のスマートフォンやパソコンを使ってアクセスでき、色分けされた地図を見るだけで「どの場所で、どのくらい災害の危険度が高まっているか」を知ることができます。危険度の情報は10分ごとに更新され、最大3時間先までを予測した危険度を確認できます。

○危険度

警戒レベルが高くなるにつれて、色が、黄、赤、紫、黒と変化

『黄色』は注意、『赤』は警戒レベル3相当（警戒）で“高齢者等避難”、

『紫』は警戒レベル4相当（危険）で“避難指示”、

『黒』の【災害切迫】は“命の危険が迫っている状況”です。

『黒』の表示を待つことなく、高齢者や幼い子供のいる家庭では遅くとも“警戒”を示す『赤』が表示された段階で、その他の方も遅くとも“危険”を示す紫が表示された段階で、自らの判断で早めの避難をしましょう。

「洪水キキクル」は、今年2月から、中小河川と大河川の危険度を一目で把握できるように改良されました。

地域のより詳細な洪水災害の危険度をワンストップで確認できるようになった「キキクル」を、お役立てください。

「キキクル」は気象庁ホームページ「キキクル（危険度分布）」から閲覧できます。

<https://www.jma.go.jp/bosai/risk/>

◎また、いざというときに備えてハザードマップの確認を！

国土交通省・国土地理院「ハザードマップポータルサイト」

<https://disaportal.gsi.go.jp/>

以上